

問1 円安になることで利益が増えやすくなる、海外へ製品を販売している企業を何という？

1. 輸入企業 2. 小売企業 3. 製造企業 4. 輸出企業

問2 外国の通貨に対して、日本円の価値が相対的に上がることを何という？

1. 円高 2. 円安 3. 株高 4. 株安

問3 日本円と外国の通貨を交換する際、1単位あたりの円の価値が下がっている状態を何という？

1. 円安 2. 円高 3. インフレ 4. デフレ

問4 継続的に物価が下がり続け、相対的にお金の価値が上がってしまう経済状態を何という？

1. デフレーション 2. スタグフレーション 3. ハイパーインフレ 4. インフレーション

問5 日本銀行が景気や物価を安定させるために、金利の調整などを行う経済上の取り組みを何という？

1. 財政政策 2. 金融政策 3. 公共政策 4. 産業政策

問6 日本銀行が日本で唯一発行を許可されている、紙幣（日本銀行券）を発行する銀行としての役割を何という？

1. 発券銀行 2. 一般の銀行 3. 政府の銀行 4. 銀行の銀行

問7 物価が継続的に上昇する中で、消費者が自分の持っているお金でどれだけのモノを買えるかという力を何といいますか？

1. 供給力 2. 生産力 3. 購買力 4. 競争力

問8 お金に余裕がある人から、必要としている人へ資金を融通する仕組みを何という？

1. 金融 2. 財政 3. 貿易 4. 投資

問9 円安が進んだとき、海外での売上を日本円に換算した際の受け取り金額が増加し、利益を得やすくなるのはどのような企業ですか？

1. 輸出企業 2. 卸売業者 3. 小売店 4. 輸入企業

問10 税金の受け入れや国の予算の管理など、政府の資金を取り扱う日本銀行の役割を何という？

1. 発券銀行 2. 市中の銀行 3. 銀行の銀行 4. 政府の銀行

問11 日本銀行がかつて金融政策の手段として用い、市中銀行への貸出金利の基準としていた金利を何という？

1. 公開市場操作 2. 預金準備率 3. 法定準備金 4. 公定歩合

問12 経済全体でモノの値段が継続的に上がり、貨幣の価値が相対的に下がってしまう現象を何といいますか？

1. 手形 2. 株券 3. 債券 4. 通貨

問13 円高によって収益が悪化しやすい、製品を海外へ売る産業を何という？

1. 輸入 2. 輸出 3. 投資 4. 消費

問14 銀行同士が資金を貸し借りし、経済活動を円滑に進めるために行われる仕組みを何という？

1. 預金貸出 2. 資産運用 3. 信用創造 4. 資金決済

問15 日本銀行が景気調整のために市中銀行との間で行う、債券の売買による金融政策を何という？

1. 小切手 2. 手形 3. 社債 4. 国債

答え合わせ・解説

問1	答え 4 輸出企業	円安になると、海外で販売する製品を同じドル価格で売ったとしても、日本円に換算したときの売上高が増えます。また、価格を下げて販売しやすくなるため売れ行きも良くなり、自動車や電機などの輸出企業にとっては追い風となります。
問2	答え 1 円高	円高とは、例えば「1ドル=100円」だったものが「1ドル=80円」になるような状態です。これは以前よりも少ない円で外国の製品を購入できることを意味します。
問3	答え 1 円安	円安とは「1ドル=100円」から「1ドル=120円」へ変化するように、外貨を買うために必要な円の量が増えることを指します。これは、円が外貨に対して安くなっていることを意味します。
問4	答え 1 デフレーション	デフレーションでは、モノの価格が下がり続けるため、企業は売上が減少します。また、お金の価値が上がるため、消費者は将来の値下げを期待して買い控えを行い、さらなる不況を招く悪循環に陥りやすいのが特徴です。
問5	答え 2 金融政策	日本銀行が行う金融政策は、民間銀行が日本銀行から借りる際の金利を調整したり、市場に出回るお金の量を操作したりすることで、景気をコントロールします。金利を下げれば企業は投資しやすくなり、金利を上げれば景気の過熱を抑える効果があります。
問6	答え 1 発券銀行	日本銀行は日本で唯一の「発券銀行」として、日本銀行券を製造・発行する権限を持っています。私たちの手元にあるお札はすべて日本銀行から供給されており、信用ある通貨として全国で通用しています。
問7	答え 3 購買力	購買力とは、お金を使ってモノやサービスを購入する能力のことです。物価が上がると、これまでと同じ金額を払っても以前ほど多くのモノが買えなくなります。つまり、実質的な購買力が低下し、消費者は生活水準を維持することが難しくなります。
問8	答え 1 金融	預金者からお金を預かり、それを企業や個人へ貸し出す銀行などの金融機関がこの仲介役を担います。お金の貸し手は利息を受け取り、借り手は事業や購入のために資金を得ることで、経済活動が活発になります。
問9	答え 1 輸出企業	円安になると、海外で商品を販売して得た外貨を日本円に替えた際、以前より多くの日本円を受け取ることができます。そのため、自動車メーカーや電機メーカーなど、海外での売上比率が高い輸出企業にとっては、業績が向上する追い風となります。
問10	答え 4 政府の銀行	日本銀行は政府の預金を預かり、国税の受け入れや公共事業費などの支払いを処理します。この役割を担うことで、国の資金を安全かつ効率的に運用することが可能になっています。政府との連携が不可欠であり、中央銀行としての重要な職務の一つです。
問11	答え 4 公定歩合	日本銀行が公定歩合を引き下げると、銀行が日銀から資金を借りやすくなり、結果として銀行から企業や個人への貸出金利も下がるため、世の中に出回るお金の量（マネーストック）が増加します。逆に引き上げるとお金の流通量が減る仕組みです。
問12	答え 4 通貨	インフレーションが起こると、同じ金額のお金で買えるモノの量が少なくなります。これは裏を返せば、お金そのものの価値（購買力）が低下していることを意味します。モノの値段が上がれば上がるほど、対外的にお金の価値は小さくなってしまいます。
問13	答え 2 輸出	円高になると、海外で販売する製品の現地通貨建て価格を高く設定せざるを得ず、販売量が落ちるか、同じ価格で売れば円換算の利益が減るといった二重の苦しみを味わいます。これにより、輸出産業の収益は大きく悪化しやすくなります。
問14	答え 4 資金決済	日本銀行にある民間銀行の当座預金口座を使って、銀行同士の支払いを差し引き計算で精算します。これにより、大量の現金を持ち運ぶことなく、安全かつ確実に「資金決済」が行われます。この効率的な仕組みが現代の経済を支えています。
問15	答え 4 国債	日本銀行が市中銀行から国債を買い入れると、銀行の資金が増えて市場のお金の流れが活発になります。逆に、日本銀行が国債を売ると、市中銀行の資金が日本銀行へ移動し、市場のお金の量が減る仕組みです。